

## 2. 騎乗馴致

### 2. 騎乗馴致

#### 1) 騎乗馴致の流れ

必ずヘルメット、ボディープロテクター、滑り止め付き手袋を装着する。ヘルメットは、あご止めを確実に止める。また、馬の前肢にはプロテクター、必要であれば、オーバーリーチブーツ（ワンコ）も装着する。

➤Point：騎乗馴致は、人馬ともに安全に進めることが重要である。

|     | ハミ受け                                                                                 | 鞍づけ、騎乗                                                   |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 目的  | (目的)<br>馬を御せるようにする<br>(バイクに例えれば、<br>ハンドルとブレーキ、アクセル<br>などの制動装置をセットすること)               | (目的)<br>馬に乗れるようにする<br>(バイクに例えれば、<br>座席とステップを<br>据え付けること) |
| 前準備 | チフニーでの収放牧、曳き運動<br>歯、口腔内のチェック、ハミ馴致                                                    | パッティング、ストラップ                                             |
| 第1週 | ペン内：ランジング<br>(声によるコミュニケーションの確立)                                                      | 帯じめ(腹帯馴致)                                                |
| 第2週 | ペン内：ドライビング<br>・合図となる音声、言葉の理解<br>・前に出る馬を作る<br>↓<br>屋外：ドライビング(スラローム等)<br>今後騎乗する環境にも慣らす | 鞍づけ(装鞍)<br>↓<br>馬房内：馬の横でジャンプ<br>横乗り<br>騎乗                |
| 第3週 | ペン内：騎乗(連歩、駆歩)                                                                        |                                                          |
| 第4週 | パドック、走路⇒集団での騎乗                                                                       |                                                          |

騎乗馴致の流れ

#### 2) 事前の準備

##### (1) 口腔内検査と整歯

馴致前には、必ず口腔内検査と整歯を実施する。理由は、以下のとおりである。

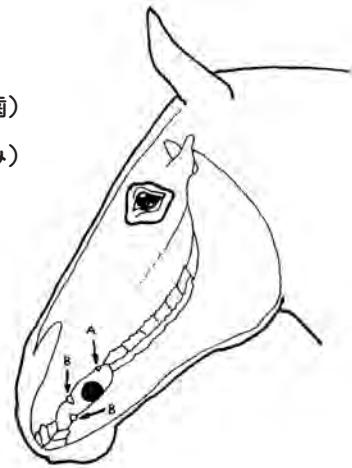
- ①馬がハミをより快適に受け入れられる環境を作る。
- ②狼歯が伸びている場合は、調教を進める過程でハミ受けのトラブルが生じる。
- ③売却後の歯によるトラブルを防止する。

＜方法＞

- ・口を開け、歯並びや口腔内の異常の有無を検査する。
- ・臼歯を歯鑑（やすり）で削る。特に、ハミが当たる部分は入念に実施する。
- ・狼歯（瘦せ歯）を抜歯する。

A：狼歯（瘦せ歯）

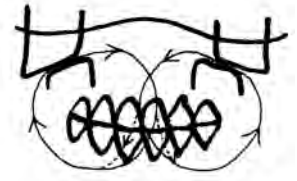
B：犬歯（♂のみ）



馬の歯とハミの位置

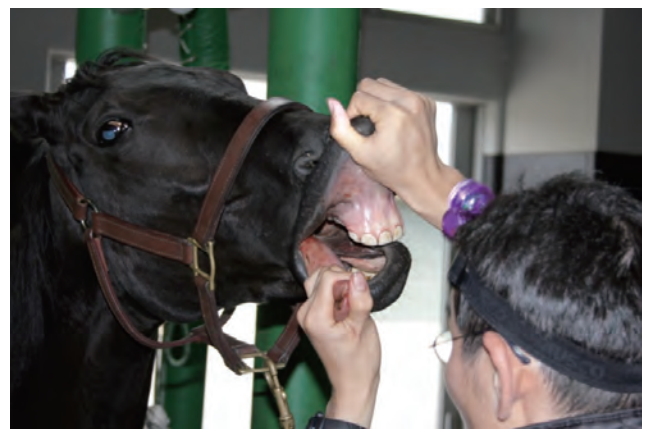


処置前



処置後

処置前後の咀嚼運動の相違



口腔内検査

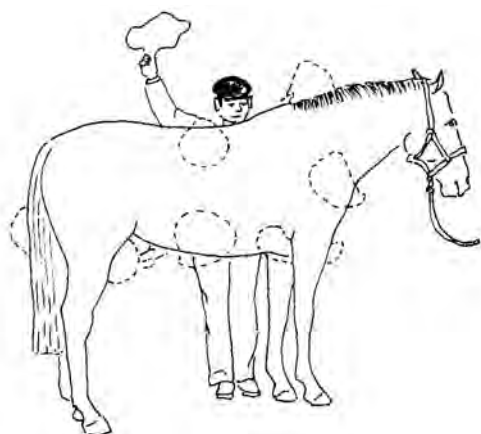
##### (2) タオルパッティング

➤Point：パッティングの目的

1. 触られることを嫌う場所に慣れさせる。
2. 死角付近に物が見えることに慣れさせる。

- ・馬は最初、ヒラヒラしたタオルで触られることを怖がるが、死角部分（真後ろや腹下）まで十分に慣らすことにより、この恐怖感を除去できる。
- ・パッティングは、触られることを嫌う部位（耳の後ろ、尻、脾腹、背中、脇の下、肢など）を重点的に実施する。

- ・タオルパッティングの実施は、次のステップであるランジングや騎乗において、調馬索が後肢や脾腹に触れること、背の上に人が見えることなどを、スムーズに受け入れる素地を作る。
- ・人のアクションに対して、無害であるとの信頼関係を築く。



最初のパッティングは、馬を動かさずに実施する。



パッティングしながら、両手前の回転を実施する。

### (注意点)

- ・タオルパッティングは、手や柔らかいブラシで体や肢を触ることが可能になってから実施する。
- ・最初は静かに、慣れたら思い切ってしっかりと左右同様に実施する。
- ・危険防止のために、保持者とパッティング者は、常に同じサイドに位置する。
- ・常に落ち着いた態度で接するとともに、声をかけて安心させる。人の表情はソフトに、懲戒するような態度は禁忌である。

### (3) 馬房内での回転

➤Point : 馬房内での回転は、大きく  
しっかり歩かせる。

- ・馬房で騎乗する際の事前準備として、馬房内を歩いて回転できるようにしておく。
- ・音声やアクションにより、緊張なくスムーズに歩けるまで繰り返す。
- ・音声コマンドで動けるようにする。
  - ①前進：「前！」「ゴー」「ウォーク」（張りのある強い声を使う）
  - ②停止：「止まれ～」「ホーラ」「ホールト」（語尾を引き伸ばし、やさしく下げる）
- ・停止後は駐立状態を維持する。人の指示により、動き出すようにする。
- ・最初は左手前で実施し、最終的には両手前を回転できるようにする。
- ・馬を慌てさせないように注意する。

### (4) ストラップによる圧迫馴致

- ・ストラップをよく見せ、匂いをかがせて安心させる。最初は静かに、徐々に手早い装着に慣れさせる。
- ・最終的にはストラップを強めたり弱めたりしながら、馬房内を歩かせる。両手前を同様に実施する。



ストラップを用いた圧迫馴致

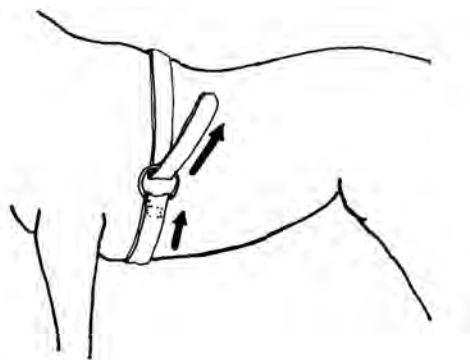
➤Point : ストラップの目的は、腹帯の圧迫に  
慣れさせることである。

### ○ストラップ馴致の留意点

＜良い例＞ リングを背から回す

- ・ストラップを引きあげることにより、腹を起点にリングを上にあげる（腹帯を締める時と同じ方向の圧迫）。
  - ⇒腹帯と同じ力がかかる。
  - ⇒緊急時に解除しやすい。

## 2. 騎乗馴致



良い例：リングを背から回す

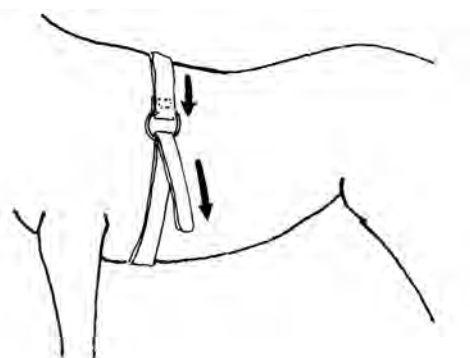
＜悪い例＞リングのない側を背から回す

- ・ストラップの引き下げにより、背を起点にリングが下がる。

⇒腹帯とは逆方向の力がかかり、キ甲が圧迫される。

⇒下向きには力が入りづらい。

⇒緊急時に解除しづらい。



悪い例：リングと反対側を背から回す

参考) ストラップ馴致は、ローラー装着前の腹帯馴致として、米国（フロリダ）のマーティーファームで実施していた方法を取り入れた。ヨーロッパでもローラーの尾錠をロックせず、圧迫馴致を実施する場合がある。皮ベルトとリングというシンプルなストラップ構造は、解除が容易であり、使用方法も簡便である。

### 3) ハミ馴致

- ・騎乗馴致の段階まで無口頭絡で管理されている場合は、馴致開始前の2～3日間、馬房内でハミ芯にキー（舌遊び）がついた棒ハミを装着し、ハミに慣れさせる。
- ・緊張なく舌でキーを遊ぶことにより、唾液が分泌される。口腔内の湿潤状態が確認できれば、このステップを終了する。
- ・近年は普段の引き馬からチフニーを用いて管理されており、口腔内の異物（ハミ）による下顎の圧迫には十分慣れている。このため事前の馴致プロセスを設けなくても、問題はない。

### 4) ランジング

#### ＞Point：声によるコミュニケーションの確立

＜準備＞

- ・プレーキングビットを装着し、キャブソン鼻革は頬革の下方でずれないように、確実に固定する。
- ・調馬索はキャブソン中央の環から取る。
- ・捕まえるのが困難な馬以外は、無口をはずす。

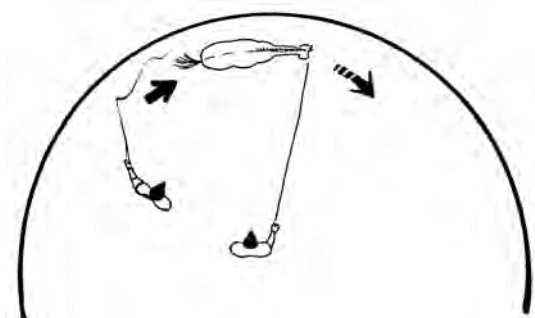


キャブソンを装着したランジング準備

#### (1) 最初のランジング（1本調馬索）

- ・引き馬などで培ってきた「進め」と「止まれ」のコミュニケーションをもとに、一つずつ新しいコマンドを加える。一度に多くを求めてはならない。
- ・音声による発進、常歩、停止の移行がスムーズに実施できるように、「例：WALK（常歩）、TROT（速歩）、STAND（止まれ）」などのコマンドを理解させる。
- ・最初は、同じ蹄跡上で落ち着いた速歩が維持できればよい。
- ・求める歩法になった時にしっかり褒めることは、理解やコマンドの定着を早期化させる。
- ・手前変換や終了・停止などの節目には、必ず蹄跡上で停止させ、中央に引き入れてはならない。これは馬が自ら内側を向いて止まり、人と正対してランジングの中断を覚えるからである。人が接近するまで、蹄跡上での駐立を維持できるように根気強く教える。
- ・多くの馬は左手前が得意であり、右手前は苦手である。このため最初は得意な左手前を中心に実施するが、苦手な右手前の運動時間を徐々に増加することにより、両手前をスムーズに実施できるようにする。





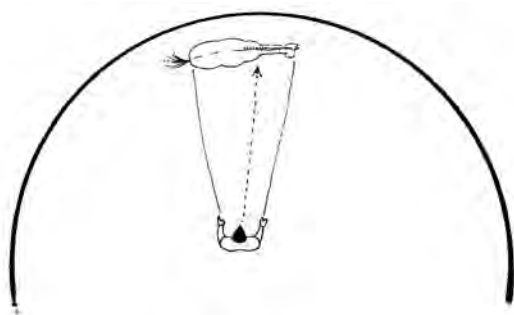
初期段階のランジングと人の位置

- ・ 人馬の安全を確保し、馬に明確な指示を発するため、必ず二人一組で実施する。
- ・ 本来、調馬索を持つ者がリーダー、鞭を持つ者がアシスタントという役割分担である。しかし、最初はアシスタントがリーダーとして推進役に徹した方が、馬は理解しやすい。
- ・ レーンの保持者は、基本的に中央に位置して動いてはならない（回転運動のみ）。
- ・ 減速、停止の際、アシスタントは動きを弱め、徐々に音声コマンドで運動することを教える。
- ・ やがて最終的なリーダーは、本来の調馬索を持つ者に移行する。
- ・ 二人から相反する指示が出された場合は、馬が混乱する。そのため二人の連携した指示が重要である。



ランジング風景

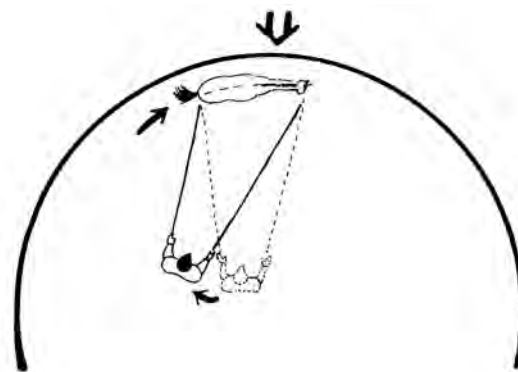
＞Point：壁に沿って運動をさせる。



2本の調馬索を用いる際の人馬の位置関係  
(人の視線は馬の肩部)

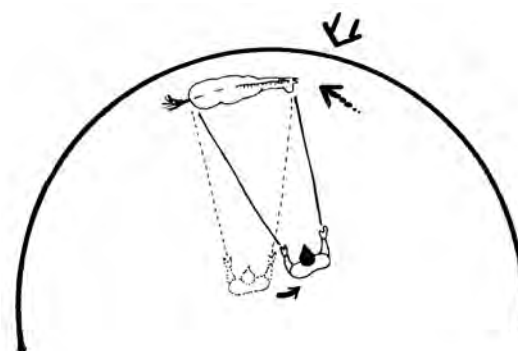
### (2) 加速・減速のテクニック

- ・ 御者は、加速を求める時は少し後方に位置し、減速する時は前方に移動する。
- ・ 御者は動きの重い馬では若干後方、早くなりがちな馬では若干前方に位置する。
- ・ 馬が内側に入ろうとした場合、御者は後ろに下がってはならない。前進して壁となることにより、外側に向けたプレッシャーをかけ、蹄跡上を歩かせる。



加速のテクニック

- ・ 御者のプレッシャーを理解し、馬が壁に沿って動くことができれば、すみやかに中央の位置に戻る。
- ・ 停止させる際は、馬の前方から強いプレッシャーをかけて急停止させてはならない。馬のやめたいという意思表示、口をモグモグするチューイングなどのサインを待ち、徐々に減速の指示を出す。
- ・ 馬が能動的に人の要求する行動を取ろうとした際、御者はプレッシャーを解除することによって、その行動が御者の望むものであることを伝える。



減速のテクニック

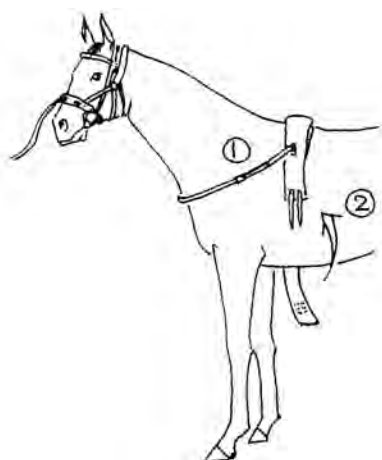
## 2. 騎乗馴致

### 5) 腹帯馴致

#### (1) ローラーの装着

ローラー装着は、騎乗馴致において馬のリアクションが最も大きくなることから、慎重に進めるステップである。

- ・初めてのローラー装着は、ペン内において常にランジングに移行できる状態で実施する。
- ・ローラーの後方へのずれを防止するために、必ず馴致用の胸ガイ（プレストプレート）を装着する。
- ・装着順は①胸ガイ⇒②ローラーの順とする。胸ガイを着けずにローラーを締めた場合、ローラーが後方にずれるからである。この状態は、馬がパニックを起こす原因となり、非常に危険である。



ローラー装着の手順

#### (2) ローラーを装着したランジングの手順

事前の馬房内でのストラップ馴致が完了している場合でも、大きな呼吸により胸郭が膨らみ、経験したことのない圧迫を感じ、想定外のリアクションをみせることがある。このため、油断することなく、細心の注意を払って実施する。

- ① 1本の調馬索でランジングを実施し、声に対する従順性を確認する。
- ② ランジング後、左手前で蹄跡に駐立させて、ローラーを装着する。



最初はゆるく締める。保持者は馬の頭を下げさせない。

- ③ 胸ガイの装着後は、ずれない程度にローラーを締め、調馬索を伸展する。助手は、常にムチで推進できるように準備しておく。

- ④ ランジングで常歩・速歩を実施する。



声とアクションを使って、壁沿いを歩かせる。

- ⑤ ローラーの圧迫を感じてかぶったり、立ち上がろうとする場合は、瞬時に追いムチや声によって前方に出す。馬は前方に動くことによりローラーの圧迫に慣れ、落ち着いたランジングが可能となる。このことにより、馬は何かあった時には、真っ直ぐ前方に出ることを学ぶ。



前に出ない馬に対しては、声とムチにより推進する。



かぶった馬が内側に入らないよう前に出す。

**>Point : かぶったり立ち上がった際には、瞬時に馬を前に出す。**

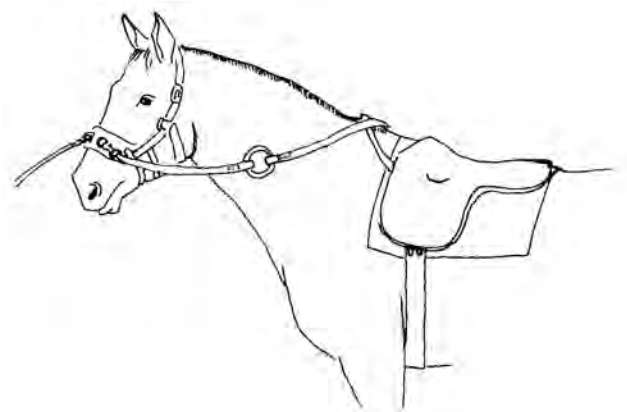
- ⑥再度しっかりローラーを締める。
- ⑦上記⑤と同様の手順で実施する。
- ⑧終了後、馬房内で30分程度ローラーの装着を継続する（ハミ、バンテージも装着）。
- ⑨ローラー装着時の反応が強い馬は、半日～1日程度装着を継続することもある。

### 6) サイドレーンの装着

#### (1) サイドレーンの効用

- ①ハミへのコンタクトを学ばせる。
- ②一定の可動域を設け、頭頸の位置を安定させる。
- ③バランスの良いハミ受けを理解させることにより、頭頸の運動を促す。

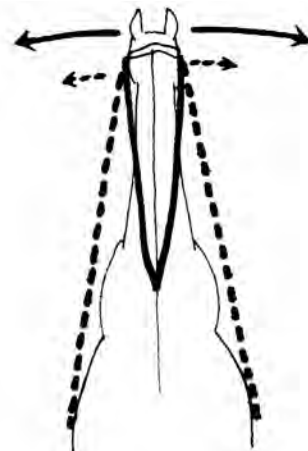
#### (2) サイドレーンの装着方法



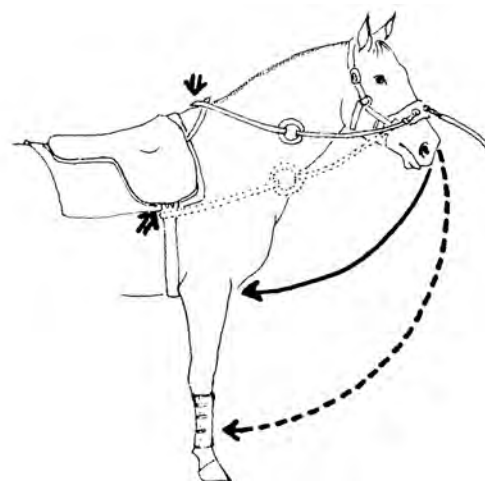
サイドレーンの装着

- ・騎乗馴致においてサイドレーンは、キ甲部でクロスさせて装着する。
- ・この方法は、アンチグレイジングレーンと呼ばれている（グレイジングは「牧草を食べる」との意味）。つまり、屋外でドライビングを実施する際に、頭を下げて草を食べることなど、いたづらを防止する方法である。この方法は、必要以上に頭を下垂させず、騎乗時の安定した頭頸の位置を教えるうえで、極めて有用である。
- ・ローラーに慣れた段階で、ペン内で装着して慣れさせておく。
- ・最初、サイドレーンはハミではなく、キャブソンからとる。馬が冷静であることを確認してから、ハミからとる。これは、暴れることによる口の損傷を防止するためである。
- ・サイドレーンはキ甲部でクロスさせることなく、直接ハミからとる方法もある。しかし、この方法は、若馬にとって横方向への頭頸の制御が強くなり過ぎ、頭頸が下がった際には、前脚をからめて下顎骨折を発症する危険を伴う。

- ・サイドレーンの装着時には、馬が頭を下げてローラーが腹部を圧迫し、かぶることがあるので注意する。



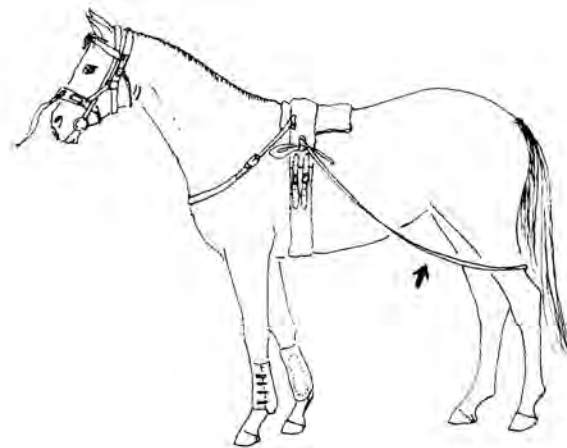
レーンをつける位置による頭の可動範囲の相違－1



レーンをつける位置による頭の可動範囲の相違－2

#### (ヒップロープ)

- ・事前のタオルパッティングなどにより、殆どの馬は問題なく馴致を進められる。しかし、2本目の外側調馬索の後躯への接触に過敏な馬に対しては、ダブルレーンのランジングに移行する前に、ヒップロープを装着して1本の調馬索でのランジングを実施する。



ヒップロープにより、飛節への調馬索の接触に慣らす。



## 2. 騎乗馴致

### 7) ドライビング

#### ドライビングの効用

- ①騎乗することなく、基本的なハミ受けを教えられる。
- ②脇腹に調馬索が触れることにより、騎乗時の脚の接触に慣れる。
- ③飛節に調馬索が接触しても、蹴ってはいけないことを学ばせる。
- ④後方からの操作は、騎乗時と同様の位置関係にある。
- ⑤馬は自ら外（未知）の世界に向かっていかなければならず、馬の気持ちを前向きにする。



間違えなドライビング

➤Point：音声コマンドにより、馬を後方から動かす。

#### (1) 2本の調馬索を用いたランジング

馬はローラーを受け入れ、キャブソンからとった1本の調馬索で落ち着いてランジングができるようになる。この段階を確認してから、ドライビングの準備である2本の調馬索を用いたランジングに移行する。

＜手順＞

- ①ここまでの復習として、1本の調馬索で軽く両手前のランジングを実施する。
- ②補助者は、ペンの蹄跡上で馬を左手前に保持し、2本目の調馬索をキャブソンの外側の環に連結する。御者は、馬の左側に位置して調馬索を後方に回す。
- ③御者は調馬索を伸展させながら、馬の後方、ペンの中央に回り込む。
- ④外側の調馬索は飛節の上部に位置させるが、強く引かない。この際、調馬索が飛節に触れることにより馬が驚き、突進する場合があるので、補助者は馬の口を確実に保持する。

- ⑤補助者が引いて冷静に常歩ができるようであれば、馬から離れて、御者の指示による常歩、速歩を実施する。
- ⑥手前変換の際には、一旦蹄跡上で停止させ、補助者がS字を描くように誘導して右手前に移行する。
- ⑦冷静にランジングができるようになれば、キャブソンではなく、直接ハミから調馬索をとる。



ローラーとサイドレーンを装着したランジング

#### (2) ペン内でのドライビング

- ・ペン内での2本の調馬索を用いたランジングが、落ち着いて実施できるようになったら、御者は徐々に馬の後方へ回り込んで、ドライビングの体制に移行する。
- ・旺盛な前進氣勢を保ちながら、手前変換を実施する。



ペン内での方向転換



ペン内での方向転換の方法

- ・十分な前進氣勢によるペン内での方向転換が可能であることを確認後、屋外に出る。
- ・最初は補助者が誘導するが、興奮しなければ、補助者は馬から離れて御者の横で待機する。
- ・馬には十分な前進氣勢を求める。



外に出て、最初のうちは補助者が馬に付く。

### (3) ドライビングのテクニック

○ドライビングは、馬の真後ろから少しずれて実施する。

理由：

- ①真後ろは馬の死角であるため、馬に見えるところに位置して声をかけて安心させる。アイコンタクトの可能な位置が望ましい。
- ②真後ろに位置した場合、馬の直線的な突進を抑止できない（急に後退して蹴る場合もある）。
- ③突然の動きに対しては、馬を回転させ、ランジングに移行して運動を制御する。



正しい人の位置



良い位置：馬が人の存在を認識できる。

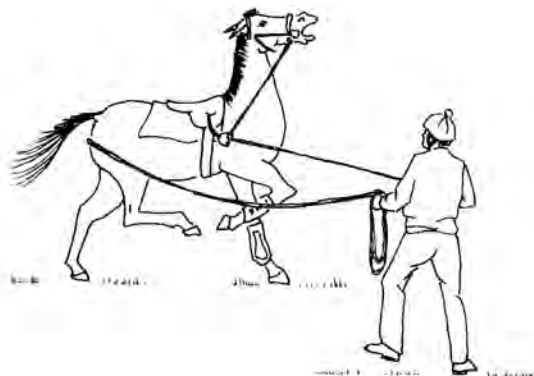


悪い位置：御者は馬の死角に入る。

○若馬のドライビングでは、調馬索をアブミに通さない。開き手綱を理解し、ハミ受けのできた馬に対する馬術的なドライビングとは、区別するべきである。

理由：

- ・プレーキング初期は、口向きや筋肉が完成されていないことから、調馬索をアブミに通す方法では、制御が強くなり過ぎる。特に、内側調馬索が強く口に作用することにより、歩様が短節になる。また、馬が頭を挙げた場合、調馬索が馬の口に対して後方に作用する。



調馬索をアブミに通すと口へのあたりが強くなる。



## 2. 騎乗馴致

### ＜場所を変化させるドライビング＞

- ・馬が退屈しないように、ドライビングは場所を変えて実施する。騎乗運動の実施場所でのドライビングも有効である。
- ・立ち木やコーンを用いたスラロームなども、口向きの形成に有効である。
- ・ドライビングが可能になったことに、満足してはならない。口向きを形成するためには、常に旺盛な前進氣勢を求める必要がある。
- ・前進氣勢が十分であれば、馬房やペンの出入り、後述するゲートへの出入りも、問題なく実施できる。

### ＜ドライビング終了の目安＞

十分な前進氣勢を保持し、以下のことが可能になれば、ドライビングを終了する。

- ・常に調馬索が一定のテンションを維持した状態でドライビングできる（調馬索に針金が入ったような張力）。
- ・後軀を踏み込んで、滑らかなスラロームを描ける。
- ・新奇環境においても、落ち着いてドライビングできる。
- ・音声コマンドにあわせて調馬索を譲ることにより、常歩からスムーズに速歩に移行、また逆も可能である。この段階では、後退を学ばせる必要はない。



後日騎乗する場所をドライビングで歩く。



スラローム運動により口向きを向上させる。



立ち木を用いたスラローム



ペンや馬房の出入り口で、口向きを確認する。

### （４）休養馬へのドライビング

ドライビングは騎乗馴致のみならず、休養馬に対しても有用であり、再騎乗に向けた準備期に応用する。また、鞍傷により騎乗できない場合、感冒などの発症後など、短期間内に通常調教に戻す場合に、毎日のリズムを崩さないためにも有効である。普段からドライビングを活用することにより、御者のスキルアップも期待できる。

### 8) スタンディングマルタンガールの使用

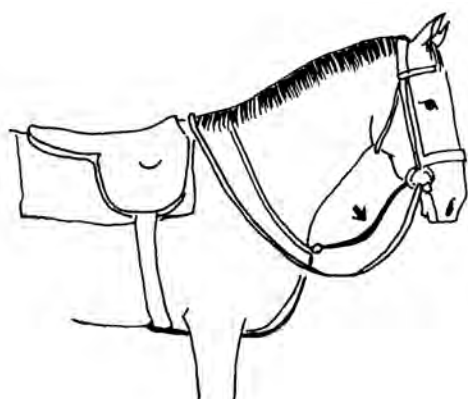
スタンディングマルタンガールは、ドライビングから騎乗までの期間、装鞍時に装着する。騎乗して馬がおとなしければ、順次ビブマルタン（ランニングマルタンガールの一種）に変更する。

#### (1) スタンディングマルタンガールの効用

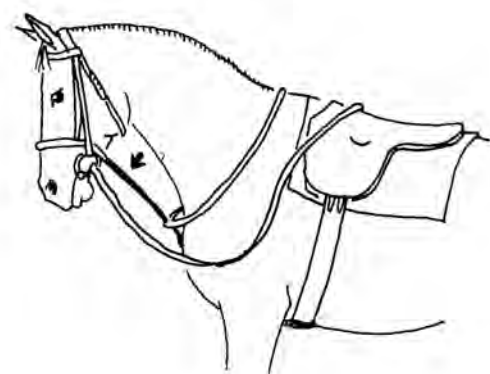
- ・頭を高く挙げさせない。
- ・サイドレーンとの併用により、ドライビングにおいて頭頸の位置を一定に維持させる。
- ・サイドレーンとの併用では、頭部の可動域が直径1mの円内に収まるイメージである。
- ・スタンディングマルタンガールの本来の目的は、騎乗時に馬が急に頭をあげた場合でも、人の顔面におつからないようにすることにある。

#### (2) スタンディングマルタンガールの装着方法

- ・腹帯からとったマルタンガールは、前肢にからまないようネックストラップを経由し、無口あるいは鼻革に連結する。
- ・図のように、適切な長さの装着が重要である。



適切な装着状態



きつすぎる装着状態

### 9) 装鞍とエクササイズシーツの着用

馬房内でローラーを装着できれば、装鞍する。この際に、エクササイズシーツの馴致も併せて実施する。

○シーツは、あまり後ろにつけない(位置は写真を参照)。

理由：

腰全体を覆うようにシーツを後方につけた場合、特に立毛素材では、キャンター時に背中・腰にまとわりついて動きを阻害する。このため、シーツは後端を十字部より少し後方に合わせて装着するか、運動時はたたむ。

○シーツに慣れた馬では、特別な馴致をすることなく、馬服を装着できる。



装鞍、シーツをつけたドライビング



騎乗時のシーツの位置



シーツをたたんだ騎乗運動



## 2. 騎乗馴致

### 10) 馬房内での横乗りから騎乗へ

#### (1) 横乗り（馬房内）

○横乗り（lean Over）の注意点

- ・横乗りを実施する前には、馬の横でのジャンプや鞍へのパッティングにより、馬が冷静であることを確認する。
- ・突進を防止するために、頭部は必ず高く保持する。
- ・最初はキ甲部に近い場所に乗れるよう足を挙げてもらって、ゆっくり横乗りする。
- ・大人しいようであれば、ゆっくり鞍の位置まで身体を後方に移動させる。
- ・騎乗者は、反対側に落ちないように注意する。補助者は、常に騎乗者を手前に引けるよう足首を保持する。



馬房内での横乗り

#### (2) 馬房内騎乗

- ・横乗り状態でリラックスして馬が動けるようになったら、跨いでみる。



慎重に、上体を起こす。



体を起こしたら、馬房内をゆっくり回転する。

○騎乗する際の注意点

- ・最初、騎乗者は頭部を低く保持し、馬の落ち着きを確認したうえで、ゆっくり上体を起こす。
- ・必ず手綱とネックストラップを保持する。
- ・接している馬体（筋肉）から緊張状態を察知しながら、馬を前方に出す（馬が緊張している時は、細心の注意を払う）。
- ・脚を脇腹に接触させて馬房内を歩いても緊張しなくなったら、ペン内での騎乗に移行する。

#### (3) ペン内での騎乗

- ・初めてペン内で騎乗する際は、一旦馬房内で騎乗し、落ち着きを確認した後、下馬してペンに移動する。
- ・ペン内でも最初は横乗りを実施し、反応を確認してから騎乗する。
- ・落ち着いているようであれば、補助者が引き手や調馬索で保持しながら、常歩を実施する。
- ・馬が騎乗者のコマンドに反応して動くことを確認後、調馬索を伸展させて速歩を実施する。
- ・問題がなければ、調馬索を解除する。一般的に、ここまでの過程は1～2日で達成できる。
- ・落ち着いた速歩ができれば、駆歩に移行する。
- ・前進氣勢が不足している場合は、補助者が推進をサポートする。これはあくまでサポートであり、リーダーは騎乗者である。



ペン内で初めての騎乗



ペン内での騎乗

- ・スムーズな駆歩が困難な場合は、誘導馬に先導させる。



誘導馬を用いた騎乗



ペン内で前後の馬に慣らす。

- ・ペン内での運動に人馬ともに自信がついたら、外に出して誘導馬を先頭に配した集団騎乗に移行する。



誘導馬を先頭にした集団調教

○騎乗ステージで求められること

- ①馬を前に出す (Go forward.)。
- ②真っ直ぐ歩かせる (Go straight.)。
- ③落ち着いて歩けるようにする (Go calmly.)。

- ・落ち着いた速歩ができるようになった後に、駆歩を実施する。この段階の騎乗運動では、人の重量を運ぶバランスを覚えさせる。また、適正な筋肉を養成するために、軽速歩は正しい手前で実施する。
- ・両手前の運動を均等に実施する。

- ・ムチの使用は、極力回避する。
- ・リーダーである騎乗者の指示で動くことを教え、馬の意志で勝手に停止させないように注意する。初期段階では、特に前進氣勢が重要である。

＜馴致を進めるにあたっての注意＞

- ・一步一步、確実に反復練習する。
- ・それぞれのステージでは、大人しい形だけの達成に満足してはならない。馬が注意力をもった状態 (自我を露呈した状態) で課題を消化していることを確認してから、次のステップに移行する。
- ・馴致は英語でブレーキング (Breaking) と訳され、その意味は「割る・壊す」である。つまり、馴致とは馬が野生動物としてもつ「殻」を割り、人の望む態を習得させることである。